



肝臓から胆道・膵臓・消化管まで 腹部をトータルケア

京大病院内科の消化器疾患のすべてを担当し、肝臓から胆道・膵臓・消化管にいたる幅広い領域をカバーしている。具体的には下記の4分野に大別される。

- ①肝炎・肝硬変・肝がんに対する集学的治療
- ②消化器内視鏡を用いた診断と治療
 - 消化管出血に対する内視鏡的止血術
 - 消化管狭窄に対する内視鏡的拡張術
 - 内視鏡的粘膜下層剥離術を中心とした早期食道・胃・大腸がんの内視鏡的切除
 - 側視鏡による胆膵疾患に対する経乳頭の診断・治療
 - ダブルバルーン、カプセル内視鏡による小腸疾患に対する内視鏡診断・治療
- ③進行消化器がんに対する化学療法
- ④炎症性腸疾患に対する集学的治療(特に免疫調節剤を用いた治療)

代表的診療対象疾患

I. 良性疾患

食道静脈瘤、逆流性食道炎、食道アカラシア、胃十二指腸潰瘍、ヘリコバクター胃炎、胃ポリープ、十二指腸ポリープ、小腸ポリープ、小腸血管拡張症、胆道結石(胆嚢結石、総胆管結石、肝内結石)、胆管炎、原発性硬化性胆管炎、胆嚢炎、急性膵炎、慢性膵炎、粘液産生膵腫瘍、ウイルス性肝炎・肝硬変、自己免疫性肝炎、劇症肝炎、原発性胆汁性肝硬変、潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ペーチェット病、大腸ポリープ、小腸血管拡張症

II. 悪性疾患

食道がん、胃がん、十二指腸がん、十二指腸乳頭部がん、胆管がん、胆嚢がん、膵がん、大腸がん、小腸がん、肝細胞がん、消化管悪性リンパ腫、消化管間質腫瘍(GIST)

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

14人のスタッフを中心に、月曜日から金曜日まで外来診療棟2階の201・260・261診で対応。肝臓疾患・炎症性腸疾患・胆膵疾患に関しては専門外来を設けて対応している。がん診療に関しては、積貞棟1階の外来がん診療部に消化管がんと胆膵がんの専門外来を設け、また臓器別がん診療ユニットとしても胃・食道・大腸・膵がんユニットの中心メンバーとして診療を行っている。一方で、腹部超音波検査に加え、内視鏡部とともに上部・下部内視鏡検査を担当しており、外来業務の大きなウエイトを占めている。

入院診療体制と実績

積貞棟7階の44床をホームグラウンドとして、病棟医長・副医長を中心にスタッフ・中間医・研修医の1チーム5人編成の4チームで担当している。各症例は専門スタッフの指導のもと、各主治医団で細やかに検討され、週1回のチャートカンファレンスにて最終的な治療方針が決定される。消化管がんに関しては専門チームが独立して診療に当たっており、積貞棟2階のがん薬物治療科のスタッフとも連携をとりながら、変化の多いがん患者さんに対して臨機応変に入院加療が行えるように対応している。

臨床研究の取り組み

医師主導治験はじめ多様な研究を展開

- ①活動性クローン病におけるヒュミラ単独 vs. ヒュミラ+イムラン併用療法
- ②潰瘍性大腸炎に合併するサイトメガロウイルス感染症例におけるガンシクロビル、血球成分除去療法の併用効果について
- ③クローン病のアダリムマブ効果減弱／不十分例に対するアダリムマブ再導入効果の検討

- ④食道がん化学放射線療法後局所再発例に対するME2906およびPNL6405EPGを用いた光線力学療法の多施設共同臨床第Ⅱ相試験(医師主導治験)
- ⑤JCOG1109臨床病期IB/Ⅱ/Ⅲ食道がん(T4を除く)に対する術前CF療法/術前DCF療法/術前CF-RT療法の第Ⅲ相比較試験
- ⑥IgG4関連・自己免疫性膵炎における疾患関連遺伝子の解析に関する多施設共同研究
- ⑦分枝型IPMNに対する前向き経過観察に関する多施設共同研究、他